

『治療映像をとことん生かす』



東京都・デンタルみつはし 三橋 純

顕微鏡歯科治療を始めた10数年前。顕微鏡を通して見ることで自らの治療の不備を知ることは驚きの連続であった。それと同時に顕微鏡による治療映像を患者やスタッフと共有することの教育効果の大きさは、これも新鮮な驚きの連続であった。しかし当時の記録媒体はビデオテープであり、編集にはパソコンに専用キャプチャーボードを組み込んで行なうという多大な投資と膨大な時間、編集知識が必要であったため相当に高いハードルがあった。10数年を経た現在、パソコンの性能が飛躍的に向上、軽量化、小型化も進んだことにより映像の取り扱いが手軽に行なえる状況になった。更に、録画プレゼンテーション専用機の開発、無線LANの高速化、タブレット型PCの出現により治療映像を短時間で、しかも煩わしい編集作業などせずに、どこでも気軽にプレゼンテーションすることも可能になってきた。

本講演では治療映像の記録、編集の歴史を辿りつつ、治療映像の撮影、編集法に加えて専用機やタブレット型PCを用いた最新のプレゼンテーション法を紹介し、解説を加える。

また治療映像の教育効果の実例として、当院で昨年4月から1年間、週三日の顕微鏡歯科治療を続けた1人の新人顕微鏡歯科医の治療映像を再生する。これにより顕微鏡歯科医が備えるべき基本的手技と上達曲線を具体的に示したい。